

基本構想策定の経緯

北村山公立病院は、北村山地域三市一町（東根市、村山市、尾花沢市、大石田町）を構成市町とする一部事務組合が運営する公立病院である。昭和37年（1962年）の一部事務組合設立時以来、三市一町の協力のもと、急性期や救急の医療拠点としての役割を果たしている。今後においても、地域における基幹病院としての役割を果たすべく、良質な医療提供体制の維持及び更なる発展のためには、築後50年で老朽化していること、法改正や度重なる施設基準への対応など、患者動線・アメニティの改善並びに職場環境の改善を併せて抜本的に見直す時期を迎えていることから、新病院整備を検討する必要があると判断した。

I. 当院を取り巻く環境

【外部環境】

（1）医療提供体制

北村山地域における病院は、北村山公立病院、山形ロイヤル病院、尾花沢病院の3施設となっている。そのうち、一般病床を有し、救急告示の指定を受けているのは北村山公立病院のみとなっていることから、北村山公立病院が当地域における急性期医療を支える基幹病院の役割を担っているといえる。

（2）将来人口の予測

北村山地域では、総人口の減少及び急速な高齢化が予測されている。一方、医療需要の主たる対象と想定される65歳以上人口の減少は緩やかであると見込まれている。

（3）将来患者需要

北村山地域における1日あたり将来外来患者数は、平成27年（2015年）の1日あたり外来患者数を基準とした場合、将来的に外来患者数は減少し、令和27年（2045年）の外来患者数は対平成27年（2015年）マイナス22.1%と推測される。

北村山地域における1日あたり将来入院患者数は、平成27年（2015年）の1日あたり入院患者数を基準とした場合、令和12年（2030年）まで緩やかに減少し、令和17年（2035年）以降は減少率が大きくなることが予測される。全体の入院患者は減少すると予測される一方、75歳以上の高齢者入院患者数については、令和17年（2035年）まで増加していくことが予測される。

（4）救急医療の状況

北村山地域で発生する救急受け入れの約65%を北村山公立病院が担っている。

II. 当院の状況

【内部環境】

（1）当院の概要

病床数：300床 / 診療科数：19診療科 / 開設年月日：昭和37年（1962年）3月 / 職員数：327名

（2）外来の状況（令和4年度（2022年度）実績）

市町村別の来院比率は東根市(41.4%)、村山市(29.0%)、尾花沢市(14.8%)、大石田町(6.9%)と三市一町で全体患者の90%を超えている。

（3）入院の状況（令和4年度（2022年度）実績）

市町村別の来院比率は東根市(40.0%)、村山市(27.8%)、尾花沢市(14.6%)、大石田町(7.5%)となっており、三市一町で全体患者の約90%となっている。

（4）救急受入の状況（令和4年度（2022年度）実績）

1日あたり7件程度の救急車を受け入れている状況である。時間帯別の救急車受入状況は、診察時間外において1日あたり平均3件程度の救急車を受け入れており、全体の46.9%を占めている。

また、救急車で搬送された患者のうち入院した患者の割合を示す入院率は43.5%を示し、重症度が高い患者を受け入れている状況である。

III. 基本的な考え方

【新病院整備】

（1）目指すべき将来像

北村山地域における医療の砦として、地域住民のニーズに的確に応え、医療の空白を生じさせない病院、また患者や医療従事者にとって魅力のある病院を目指す。

（2）基本方針

二次医療機関として、質の高い医療の提供に努め、患者の健康と命を守り信頼と安心を築く。また、今後予想される人口減少や高齢化に伴う疾病構造、医療資源の変化等を考慮し、近隣医療機関等との機能分担、連携強化を図りながら効率的で健全な病院運営を実現する。

（3）役割と機能

- 急性期医療体制の充実と強化
- 救急外来機能の充実
- 地域完結型の診療体制の構築
- 急性期リハビリテーション医療の充実と維持リハビリテーションの強化
- 医療・介護・福祉の連携拠点の設置
- 災害発生時の対応力の強化
- 新興感染症への的確な対応

（4）療養環境

- 患者プライバシー、空調管理、Wi-Fi利用などアメニティに配慮した過ごしやすい療養環境とする。
- 患者や職員にとって効率的な動線、ユーティリティに配慮した構造とする。

（5）職員育成と職場環境の充実

- 医療技術の向上と強化を図るため、協力型臨床研修病院としての設備を充実させる。
- 有為な人材の育成と永続的な人材確保に向け、研修環境や院内保育所等を整備し、職員それぞれのライフステージにおいて仕事と家庭生活が両立できる環境を提供し、地域医療の向上に寄与する。

（6）病床規模と病床機能

医療需要予測より北村山地域の入院患者数は、令和12年（2030年）まで緩やかに減少し、その後減少のペースが大きくなることが予測されている。そのため、新病院における病床数は山形県地域医療構想との調整を図りながら基本計画時において継続して検討する。

	現病院		基本構想
病床数	【許可病床数】 300床	【実稼働病床数】 249床	208~233床
病床機能	【実稼働病床内訳】 ○一般病棟（急性期） 203床 ○回復期リハビリテーション病棟 46床		病床機能は継続検討

（7）重点的な診療領域

新病院における標榜診療科は、現病院で標榜している診療科の維持を原則とし、高齢化の進展に対応するため総合診療科の新設を目指す。

（8）地域医療機関との連携方針

- ①近隣施設との連携
 - 地域の医療機関や介護系施設からの紹介患者を受け入れ、紹介率の向上を目指す。
 - 地域の医療機関、介護施設、在宅療養支援施設等との連携体制を構築し、逆紹介を推進する。
- ②三次医療機関との連携
 - 北村山地域唯一の救急告示病院として、救急搬送患者の受け入れを継続する。特に、脳卒中患者については、一次脳卒中センターとしての役割を果たす。
 - 対応困難な急性期患者については、脳卒中に限らず、三次医療機関と連携し対応する。
 - がん患者については、がん診療拠点病院等と連携を推進し対応する。

